

# 排泄などの業務負担軽減および、情報連携に関するシステム

提案者名

株式会社 エスアイエス

連絡先

info@si-system.co.jp

- 介護現場での排泄（尿，便）の業務負担を軽減と、家族のみなさまへ食事の内容を送付し、介護現場の透明性を高めます。
- 介護現場では排泄物の処理にかかる負担が比較的大きいとされています。そこで、センサーによって、排泄の時刻を管理します。さらに、体調や時刻と排泄の規則性を見出し、トイレでの排泄を促すことで、介護をする方だけではなく受ける方の精神的な負担軽減が期待されます。また、食事の内容を記録し、食事内容を家族に送付することで介護施設の透明性を高めます。

## 概要



介護利用者

### 食事・水分測定センサー

食事をカメラで撮影し、食事の内容を測定。  
またコップなどにも重量センサーを取り付け、摂取した水分量を測定。

### バイタル測定センサー

体温や血圧，心拍，SAT（SpO<sub>2</sub>）を測定する。

### 振動感知センサー

「体のゆれ」や「手足の動き」を測定する。

### 排泄センサー

排便や排尿を検知する。

**介護サービス利用者の  
「排泄の“クセ”」を  
解析する。**

介護士やケアマネジャー，管理者などに通知  
⇒ 素早い対応が可能に。

このシステムを実現することで  
この他にも効果が期待できる。

## その他に見込まれる、効果など

### ・介護サービス利用者

自分で排泄を行うことで、見られているという精神的な負担軽減

### ・介護従事者

- 1 サービス利用者が自らお手洗いで排泄を行うことによって排泄物処理の負担を軽減
- 2 おむつなどの使用を減らし、経営面、環境面からも効果が見込まれる
- 3 振動センサーが通常とは異なる振動を感じた場合に通知。事故の恐れがないかなどを確認するよう促す事が可能。また、起床時と就寝時の揺れの様子などを検知することで早い対応が可能

### ・医療従事者

バイタル情報の蓄積による患者の健康状態の把握が可能

### ・栄養士ほか

食事の摂取する様子を映像に残すことで、サービス利用者の好みを判断。提供する献立の改善が図れる

## 食事の撮影の例

配膳口の上部にカメラやセンサーを設置。

また、個々人のトレイに識別コード（2次元コードやカメレオンコードなど）やICチップなどを取り付け、食事の献立を把握

→ 食前食後の比較により摂取量や好みを把握



配膳口上部にカメラを設置  
→ 個人の食事の状況を保存する

トレイに識別コードなど取り付け



栄養士や家族のもとに情報を通知することで、介護サービスの透明性も確保できます。

生活リズムだけではなく、食事、体の動きなども検知することで個々人のクセを理解します。そして排泄だけではなく、生活のリズムをつかみ、QOL（生活の質）の向上を図ります。